

ごあいさつ

福島県立医科大学基礎病理学講座 千葉英樹

平成21年10月1日付けをもちまして、福島県立医科大学医学部基礎病理学講座を担当させていただくことになりました、千葉英樹です。就任から10ヶ月が過ぎ、新天地での生活にも慣れ、新しい教室の整備を進めているところです。

基礎病理学講座にはこの四月から新メンバーが加わり、現時点では教授1名、准教授1名、助教1名、助手1名、大学院生1名、テクニシャン2名、秘書1名という陣容です。まだまだ小所帯ですが、今後19年間で少しずつ大きく育てていきたいと思っております。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私たちの基礎病理学講座(旧病理学第二講座)では、初代の佐藤春郎教授と2代目の中村久也教授が吉田富三先生の門下生として、がん転移や白血病の実験的研究において数々の業績を残しました。3代目の鈴木利光教授は、人体病理学に細胞生物学・分子生物学などの新しい手法を取り入れた分子病理学を発展させてきました。今後、これらの伝統をしっかりと受け継ぐとともに、新体制独自の基礎研究や橋渡し研究を展開していきたいと考えています。

講座の研究テーマは、①細胞の接着・極性とヒト疾患、②核内受容体の機能解析、③難治がんに対する新規分子標的療法の開発、④がんの転移メカニズムの解明、⑤細胞外マトリックス分子の機能解析です。これらの研究の背景や代表的研究成果の一部については、研究内容の項目に紹介させていただきましたので、興味のおありになる方はご覧いただければ幸いです。これらの研究テーマのうち、「細胞の接着・極性とヒト疾患」についてもう少し述べさせていただきます。細胞と細胞をつなぐ細胞間接着装置は、いわゆる「糊」として機械的な結合に関わるだけでなく、様々なシグナル伝達分子をリクルートして細胞の増殖・分化・極性を制御しています。また細胞間接着装置タイト結合は、細胞間隙における分子・細胞の通過を制御するバリア機能や、細胞膜上のタンパク質・脂質の極性を規定するフェンス機能を担っています。さらに細胞接着分子や極性分子の中には、各種病原体の受容体や癌抑制産物として働くもの、病原体・アレルゲンや癌遺伝子産物の標的となるものが多数知られています。また最近、いくつかの細胞接着分子が炎症性腸疾患や気道過敏性の感受性遺伝子であることも報告されています。したがって、細胞の接着・極性の異常は、感染症やアレルギー・免疫疾患、がん等多くのヒト疾患の原因や修飾因子となると考えられています。しかし、細胞接着・極性形成の分子機構や、その異常がどう疾患に結びつくかについては未だ不明な点が多く、私たち基礎病理学講座でも日々精力的に研究を進めているところです。病理学は、病気の原因や成立機序を個体・臓器・組織・細胞・分子レベルで理解する学問です。そのためには、生体の正常構造と機能を理解した上で、その異常がどう病気に結びつくかを明らかにする必要があります。病理学が対象とする範囲

は非常に広く、専門分野を問わず医療に携わる者にとって不可欠な学問体系です。

しかしながら日本の病理は、従事する人数が最も少ない診療科の一つで、なお且つ高齢化が相当進んでいます。大都会を除けば、病理医は全国的にかなり不足しており、少なからずある新規出張要請に応えることが困難な状況です。このままでは、関連病院への出張等の病理診断業務の維持はもちろん、学部学生の病理教育(病理学総論や、各臨床科と分担して行なう臓器別講義)や、病理研究にも支障が出かねません。したがって、病理の面白さ・醍醐味を伝えることによって、一人でも多くの若手をリクルートして次世代の病理医・病理研究者を育成することは喫緊の課題です。

基礎病理学講座では現在、将来の病理を担う人を増やすことに最も力を注いでいます。例えば、数コマの講義の準備に何十時間も費やし、かけすぎというくらい手間暇をかけて、病理スケッチレポートのやり取りと口頭試問を通して、学生に“考えさせる”ようにしています。また、病理に興味のある学生とは一緒に顕微鏡を覗いて、「これは何か?」、「どうしてこうなるのか?」など考えさせています。学生には、“病気の場”としての臓器・組織・細胞という視点を是非持ってもらいたいと考えています。一方、研究に興味のある学生には、最新の論文のエッセンスを話して新しい発想・発見やブレイクスルーを感じてもらい、さらに興味を示せば研究をやってもらいます。出入りする学生には、もちろん病理に来てくれるようリクルートもしますが、たとえ臨床に行っても(というよりも、大部分の学生は当然臨床医になります)、病理や基礎的考えを理解した医者を育むことは、本人や患者さんはもとより、大学や日本全体にとっても極めて重要な役目だと思っています。

講座と医局員は、個人の所有物ではなく、“預かりもの”だと思っております。命があれば今後19年間の私の役目は、「各人の個性・特徴を伸ばして、能力・やる気を十分に発揮できる環境を整備すること」、「出来る限り自己実現できるように、希望を持って自由に研究・病理診断・教育を担ってもらうこと」だと考えています。そのことを見失った時、私は講座を預かる資格を失うことを肝に銘じています。

また私自身が、一人の弱い人間という自覚、揺るぎない強い自分という覚悟、目指すべき将来像、挑戦し続ける気持ちを持って、教室運営を担っていきたいと考えているところです。当講座では、教室員(大学院生・大学院研究生・博士研究員)を随時募集しています。病理に興味がある医学部学生や医師の方はもちろん、研究や教育に興味のある方の応募を是非お待ちしております。

甚だ微力ではございますが、私たち基礎病理学講座のメンバーは、教育・研究および病理学の様々な責務に誠心誠意努力したいと考えております。皆様には、末永くご指導ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。